

リンゴJM台木の特性

福島県果樹試験場栽培部・平成10年度試験研究成績書

1 部門名 果樹—リンゴ—形態・生育相

分類コード 04-01-05000000

2 要 旨

果樹試験場リンゴ支場育成JM台木について、‘ふじ’との適合性について検討した。供試台木としてはJM1、JM2、JM5、JM7及びJM8の5品種、対照台木としてはマルバカイドウ（以下マルバと記載）及びM.26EMLA／マルバカイドウ（以下M.26*と記載）を用いた。供試樹は、1989年12月に1年生苗を定植（植栽距離4.5×2.5m、88.9本/10a）し、現在10年生である。主幹形を目標に整枝し、原則として側枝の切り戻しは行わず、間引きせん定を主体としたせん定を実施した。また、樹高が4.5m以上の樹については7年生時に主幹延長枝を誘引して樹高を抑えた。

(1) JM2の10年生時の樹冠容積は、16.0m³（対マルバ比66.6%、対M.26*比171.6%）でマルバより小さく、M.26*よりかなり大きかった。JM8及びJM7は、7.5～8.0m³（対M.26*比80.9～86.1%）でM.26*よりやや小さかった。JM1は、5.0m³（対M.26*比53.3%）で、M.26*より小さかった。JM5は、0.6m³（対M.26*比6.3%）で、他の台木と比較して極端に小さかった。

(2) 積算収量を10年生時の幹断面積で除した生産効率は、供試台木すべてにおいて対照台木より高く、特にJM8が高かった。

(3) 10年生の樹高は、JM2は4.2m、JM7及びJM8は3.4m、JM1が3.1m、JM5が1.8mであった。

(4) 果実品質は、着色は、JM7及びJM2が良好で、JM1及びJM8はM.26*と同程度、JM5は着色不良でマルバよりも劣った。RM示度は、JM7及びJM5がやや高く、他の台木は対照台木と同程度であった。一果重は、JM5が303gとかなり小さかったが、他の台木は360～390gであった。

以上のことから、‘ふじ’の場合、JM1、JM7及びJM8は、4.5～5m×2.5～3m（植栽本数66.7～88.9本）の密植栽培に適し、JM2は植栽距離5～6×4m（41.6～50本/10a）の半密植栽培に適すると考えられた。